

第1回 ペーパン川・倉沼川災害対策連絡協議会

ペーパン川・倉沼川流域の
農地被災状況と今後の対応について

平成30年7月19日

1. 上川管内における7月2日からの大雨に伴う農業被害
2. ペーパン川流域の農地被災状況
3. 倉沼川流域の農地被災状況
4. 今後の対応について
 - ①大雨の後の営農技術対策
 - ②農地・農業用施設(用排水路、農道など)の災害復旧

上川管内における7月2日からの大雨に伴う農業被害について

＜7月12日10時現在＞

平成30年7月17日
上川総合振興局

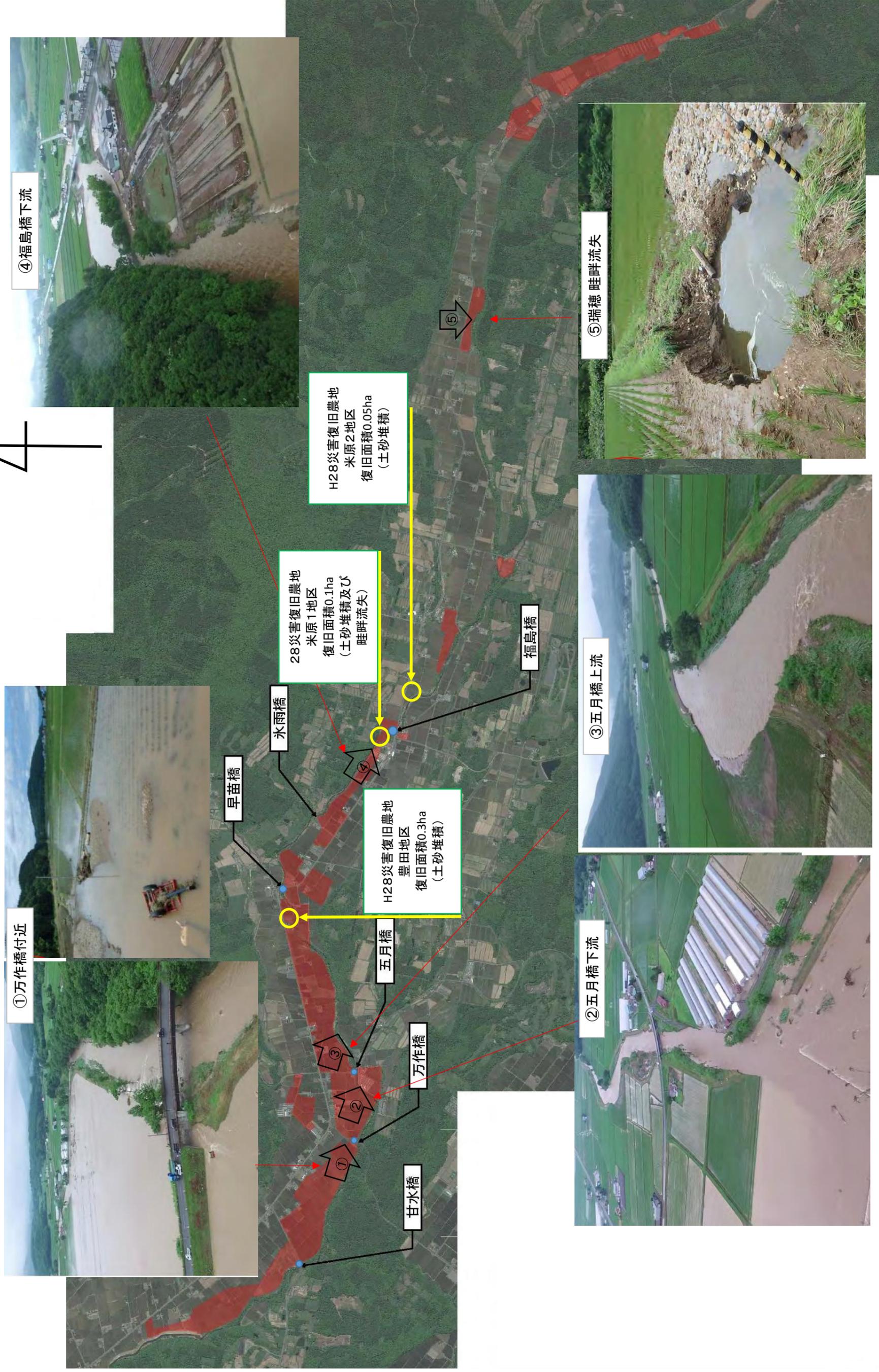
- 管内14市町村で、農作物への浸水や営農施設の損壊などの被害が発生。
- 現時点において、市町村から報告のあった被害状況は次のとおり。

市町村名	区分	数量	備考
旭川市	農作物被害	1,399.0ha	水稻、そば、大豆等
	営農施設被害	34件	ビニールハウス、穀類乾燥機等の損壊
	農地被害	24か所	農地への土砂流入や表土流出
名寄市	農作物被害	0.0ha	大豆
鷹栖町	農作物被害	0.4ha	きゅうり、トマト
東神楽町	農作物被害	0.9ha	水稻、小麦、ほうれんそう
当麻町	農作物被害	51.2ha	水稻、そば、大豆等
上川町	農作物被害	2.0ha	水稻
東川町	農作物被害	201.6ha	稲、大豆、牧草等
	農地被害	4か所	農地への土砂流入や表土流出
美瑛町	農作物被害	15.5ha	大豆、スイートコーン、小麦等
	農地被害	1か所	農地への土砂流入
	農業用施設被害	2か所	水路や農道の損壊
上富良野町	農作物被害	3.1ha	大豆、かぼちゃ、小豆等
中富良野町	農作物被害	10.3ha	水稻、たまねぎ
和寒町	農作物被害	4.7ha	かぼちゃ、そば、大豆等
下川町	農作物被害	2.1ha	そば
音威子府村	農作物被害	7.8ha	そば、牧草、かぼちゃ
幌加内町	農作物被害	37.7ha	そば、いなきび
農作物被害計		1,736.3ha	水稻305ha、そば854ha、大豆358ha、牧草98ha、野菜52ha、麦類42ha、その他27ha
営農施設被害計		34件	ビニールハウス、穀類乾燥機等の損壊
農地被害計		29か所	農地への土砂流入や表土流出
農業用施設被害計		2か所	水路や農道の損壊

(注) 農作物被害は、浸水等の影響があったものの、今後、回復するものも含む。

パーパン川流域の農地被災状況

4



倉沼川流域の農地被災状況



大雨の後の営農技術対策

平成30年7月3日
上川農業改良普及センター

上川管内では、7月2日から断続的に雨が降り、3日にかけての大雨で、低地の浸水等により農作物等の被害が発生しております。

7月3日11時現在では大雨等の警報が解除されていないことから、引き続き災害の発生に警戒し、河川流域等における安全を確認した上で、以下の技術対策を参考に被害状況に応じた適切な対応に努めてください。

◆共通事項

- 1 浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施する。
- 2 農業、畜産関係施設の損傷、倒壊等の点検に努め、必要に応じて修復、補強を行う。
また、修復等に必要な資材については、早急に必要量を把握し、その確保に努める。
- 3 農業機械が被害を受けた場合は、速やかに必要な点検、整備を実施するとともに、今後の農作業に支障が生じないように修理を行う。
- 4 農作物については、病害虫の発生に注意し、適切な防除に努める。薬剤を使用する際には、農薬使用基準を遵守するとともに、食品衛生法に基づく残留農薬の「ポジティブリスト制度」に対応した適時適切な散布に心がける。

◆水稻

- 1 浸水・冠水した水田は、速やかに排水口の解放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- 2 崩れた畦畔や土砂で埋没した用排水路や水口は、水が引いた後、速やかに改修、補修する。
- 3 ほ場内に、流入した異物などがある場合は、後の収穫作業に支障が無いように除去する。
- 4 病害虫の発生に注意する。特に「いもち病」は多湿条件で発生するので、早期発見と適正防除に努める。

◆畑作物

- 1 豆類
 - (1) 浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を行う。
 - (2) 「茎疫病」等の発生に留意し、ほ場の乾燥を待って早急に防除を行う。
- 2 ばれいしょ
 - (1) 浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では、早急に排水対策を行う。
 - (2) 「疫病」、「菌核病」、「軟腐病」の病害防除を行う。
- 3 てんさい
 - (1) ほ場の溝切りなどを行い、早急に停滞水の排除に努める。
 - (2) 「褐斑病」「葉腐病」などの病害防除を行う。

◆野菜

- 1 トマト
 - (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムの巻き上げを行う。
 - (2) 草勢を維持するため、葉面散布を行う。
 - (3) 「疫病」、「灰色かび病」、「葉かび病」の病害防除を行う。
- 2 きゅうり
 - (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水

- の除去、マルチフィルムの捲り上げを行う。
- (2) 草勢を維持するため、葉面散布、着果節位の適正化を行う。
- (3) 「べと病」、「うどんこ病」、「灰色かび病」の病害防除を行う。
- 3 かぼちゃ
 - (1) 土壌の過湿で根痛みが発生した場合は、「うどんこ病」の蔓延が懸念されるので、ほ場を観察して適切に防除する。
- 4 だいこん・にんじん・キャベツ
 - (1) 土壌の過湿によって、だいこんの裂根や横しま症状、にんじんの裂根、キャベツの裂球等が多発する恐れがある。溝切りなど表面排水に努め、収穫期に達したのものからできるだけ早く収穫する。その場合品質の劣悪なものが混入しないよう、選別を徹底する。
また、「軟腐病」の発生が多くなるので、病害防除を行う。
 - (2) にんじんは、肥料が流亡した場合は、黒葉枯病の発生が多くなるので防除を行う。
また、傾斜ほ場など土壌流亡のある畑は、青首の発生が多くなるので、ほ場乾燥後に培土を行う。
- 5 たまねぎ
 - (1) 浸冠水により「軟腐病」や「貯蔵腐敗」（りん片腐敗病・灰色腐敗病）が発生する恐れがあるので、ほ場の表面排水対策を急ぎ、ほ場の乾燥後防除を行う。

◆花き

- 1 水・換気対策
 - (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムの捲り上げを行う。
 - (2) 採花期を迎えている切花ほ場では、土壌過湿が長期化すると品質低下（軟弱化・病害発生）を招くので、ハウスの通風換気に努める。
- 2 病虫害防除
 - (1) 病虫害防除に当たっては、土壌やハウス内の過湿により発生の高まる病害を主体に、早めに薬剤防除を行う。
 - (2) 薬剤散布後ハウス内が乾きにくい状況では、少量散布防除機やくん煙剤を利用する。

◆畜産

- 1 飼料作物
 - (1) 雨水の浸み込んだロールベール乾草やサイレージ、冠水したスタックやバンカーサイロは飼料分析をするなど品質を確認し、飼料が不足する場合は、不足分の確保に努める。
 - (2) 飼料として利用可能と判断できるものでも、大雨の影響を受けたものはなるべく早期の利用に仕向ける。
 - (3) 大雨の影響を受けたロールベール乾燥は、発熱する恐れがあるので必ず点検する。
発熱したもの、あるいはその恐れのあるものは舎外に仮置きし、安全を確認してから収納する。
 - (4) 経年草地は3日程度の冠水ではほとんど枯死しないが、無冠水に比べ減収し、冠水期間が長くなるほど枯死や減収の程度が増加する。滞水したほ場は排水溝を掘るなどして排水を促す。また、既存の排水施設に詰まりがないか点検して、排水路を確保する。
 - (5) 新播草地などで冠水により表土が流失して裸地化した部分が大きいほ場は、イネ科牧草による追播を早めに行う。
- 2 飼養管理・衛生管理
 - (1) 浸水した畜舎では、速やかに排水対策を実施するとともに、舎内等の乾燥を促進する。
 - (2) 畜舎内の雨水がひき次第、伝染病や乳房炎などの慢性病の発生を防ぐため、汚染部分を水洗いして消毒剤や石灰散布、石灰塗布を行う。
 - (3) 乾草・サイレージ等の飼料は、泥や雨水に当たっていないことを確認して給与する。
 - (4) 堆肥や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りなど行い河川汚染を防ぐ。

7月2日からの大雨後の技術対策と今後の日照不足等に備えて

平成30年7月6日
北海道農政部

全道的に6月中旬から降水量が多く、日照時間が少ない状態が続いており、生育の遅れや収量・品質の低下、病害が多発しやすい状況となっています。また、道央・道北を中心に7月2～5日にかけての大雨により、ほ場への浸水・冠水等が発生しています。

札幌管区気象台が7月5日に発表した1ヶ月予報によると向こう1ヶ月の天候は降雨や日照不足が予想されていることから、気象の推移と生育状況に十分留意し、以下の技術対策の徹底により天候不順の影響緩和を図ってください。

札幌管区気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

こ れ か ら の 注 意 項 目

- 1 滞水ほ場では、排水対策を行い、ほ場乾燥を促す。
- 2 殺菌剤の散布には、収穫前の使用期限を遵守する。
- 3 あせりからくる農作業事故に注意する。

第1 共通事項

- 1 大雨により浸水・冠水したほ場や滞水しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施するとともに、明渠や排水溝への排水を確認する。土砂が流入している場合は、可能な限り速やかに土砂等を取り除き、乾燥を促す。
- 2 農作物については、病害の発生に注意する。必要に応じ適正な防除を行う。農薬の使用に当たっては、病虫害防除基準を遵守する。また、隣接する他の作物に薬剤がドリフト（目的外飛散）しないよう注意する。
- 3 降雨後のほ場確認は、単独での行動を避ける。また、道路では路肩が、ほ場ではのり面や周辺の地盤が緩んだり滑りやすくなっている場合があるので、車両の走行は速度を落とし十分注意する。
- 4 浸水・冠水の被害を受けた農作業機械・設備、自動車等は、販売店等に依頼して早急に動作確認を行う。水抜きができていない状態でいきなりエンジンを始動したり、電源を入れたりすると、重大な故障や事故につながる恐れがあるので、注意する。特に電子基板が入っている機械ではショートにより部品の全交換が必要となったり、作業機ではブレーキに泥が入り、効かないことがあるので注意する。

第2 水 稲

- 1 浸水・冠水した水田は、速やかに排水口の開放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- 2 泥流や土砂が流れ込んだ水田では、溝切りや明きよを施工し、土壌の乾燥を図る。
- 3 冠水した茎や葉に泥が付着している場合は、可能であれば、防除機（鉄砲ノズル等）で水量を多くして洗浄する。
- 4 崩れた畦畔や土砂で埋没した用排水路・水口は、水が引いた後、速やかに改修、補修する。また、用排水路の草刈り及び水路内のゴミ上げを行い水の流れを確保する。
- 5 ほ場内に流入した異物は、管理・収穫作業等に支障がないよう、ほ場の外に除去する。
- 6 低温が予想される場合は、深水管理で幼穂を保護する。
- 7 浸水・冠水した水田では、いもち病が発生しやすい傾向にあるので、こまめな観察に心掛け、万が一いもち病の発生を確認したら直ちに防除する。

第3 畑 作

- 1 浸水・冠水したほ場や滞水しているほ場では、溝切りなどの表面水の排水対策を実施する。
- 2 次の病害の発生に留意し、ほ場の乾燥を待って早急に適正防除を行う。なお、農薬の使用に当たっては、病虫害防除基準を遵守する。
 - ① 小 麦 : 赤かび病
 - ② 豆 類 : べと病（大豆）、茎疫病
 - ③ ばれいしょ : 疫病（塊茎腐敗）、菌核病、軟腐病
 - ④ てんさい : 褐斑病、根腐病、葉腐病

第4 野 菜

- 1 浸水・冠水の被害を受けたほ場では、迅速な排水対策と被害作物と被害部の除去、病害防除を実施し、品質低下を最小限にとどめる。
- 2 土壌過湿の長期化による軟弱化や病害発生等による品質低下を回避するため、ハウス内外の停滞水の除去やマルチフィルム・除草シートのまくり上げを行う。さらに通風換気に努め、積極的に湿度を低下させる。
- 3 野菜類では、根傷みや草勢低下、多湿条件の重なりから各種病害が多発する恐れがあるので、病虫害防除基準を遵守して薬剤散布を行う。この場合、薬剤散布日から収穫予定日までの日数および使用回数を遵守する。
- 4 トマト・ミニトマトは、裂果や草勢の低下が懸念されるため、必要に応じて花房を取り除き、葉面散布を行う。また、灰色かび病、疫病、葉かび病の病害防除を行う。
- 5 きゅうりは、草勢を維持するため、摘葉・整枝作業を適切に行い、葉面散布、着果節位の適正化を行う。また、褐斑病、灰色かび病、べと病の防除を行う。特に褐斑病は病勢の進展が早いので、発病葉を発見した場合は速やかに除去・搬出する。
- 6 かぼちゃは、土壌の過湿によっていわゆる「ガンベ」が発生する恐れがあるので、溝切りなど表面排水に努めるとともに、つる枯病や疫病、べと病が発生しやすい条件なので防除を行う。また、これから開花を迎える作型では、人工交配を午前中に行い、着果を安定させる。
- 7 たまねぎは、土壌の過湿により白斑葉枯病、小菌核病、軟腐病、貯蔵腐敗（りん片腐敗病・灰色腐敗病）が発生し易いので、ほ場の表面排水対策を急ぎ、防除を実施する。

- 8 ながねぎは、畝間の排水に努め、管理機が入れるようになったら軽く培土し、べと病・黒斑病の防除を行う。
- 9 メロンは、根傷みにより草勢の低下がみられる場合は葉面散布を行い、草勢の回復を図る。また、これから着果させる作型では、草勢に応じて節位を上げて着果させる。
- 10 土壌の過湿によって、だいこんの裂根や横しま症状、にんじんの裂根、キャベツの裂球等が多発する恐れがある。溝切りなど表面排水に努め、収穫期に達したものからできるだけ早く収穫するとともに、品質の劣悪なものが混入しないよう厳しく選別する。
- 11 にんじんは裂根以外にも土壌水分過多で、着色不良、軟腐病・根腐病の発生が多くなる。また肥料が流亡した場合は、黒葉枯病の発生も多くなるので防除を行う。さらに傾斜ほ場など土壌流亡のあるほ場では、青首の発生が多くなるため、ほ場乾燥後に培土を行う。

第3 花 き

- 1 浸水・冠水の被害を受けたほ場では、迅速な排水対策と病害防除を実施し、品質低下を最小限にとどめる。
- 2 土壌過湿の長期化による軟弱化や病害発生等による品質低下を回避するため、ハウス内外の停滞水の除去やマルチフィルムのまくり上げ、通風換気に努め、積極的に土壌の乾燥化を図る。
- 3 過湿によって灰色かび病等の病害発生が多くなるので、早めに薬剤防除を実施する。また、ハウス内が乾きにくい状況が予想される場合は、くん煙剤等を利用する。
- 4 収穫・出荷については、土壌水分が多いと採花後の水揚げが劣ることがあるので、品質保持剤処理には十分注意する。被害軽微で出荷する場合は、信用を損なわないよう適正な格付けと検品の徹底に努める。

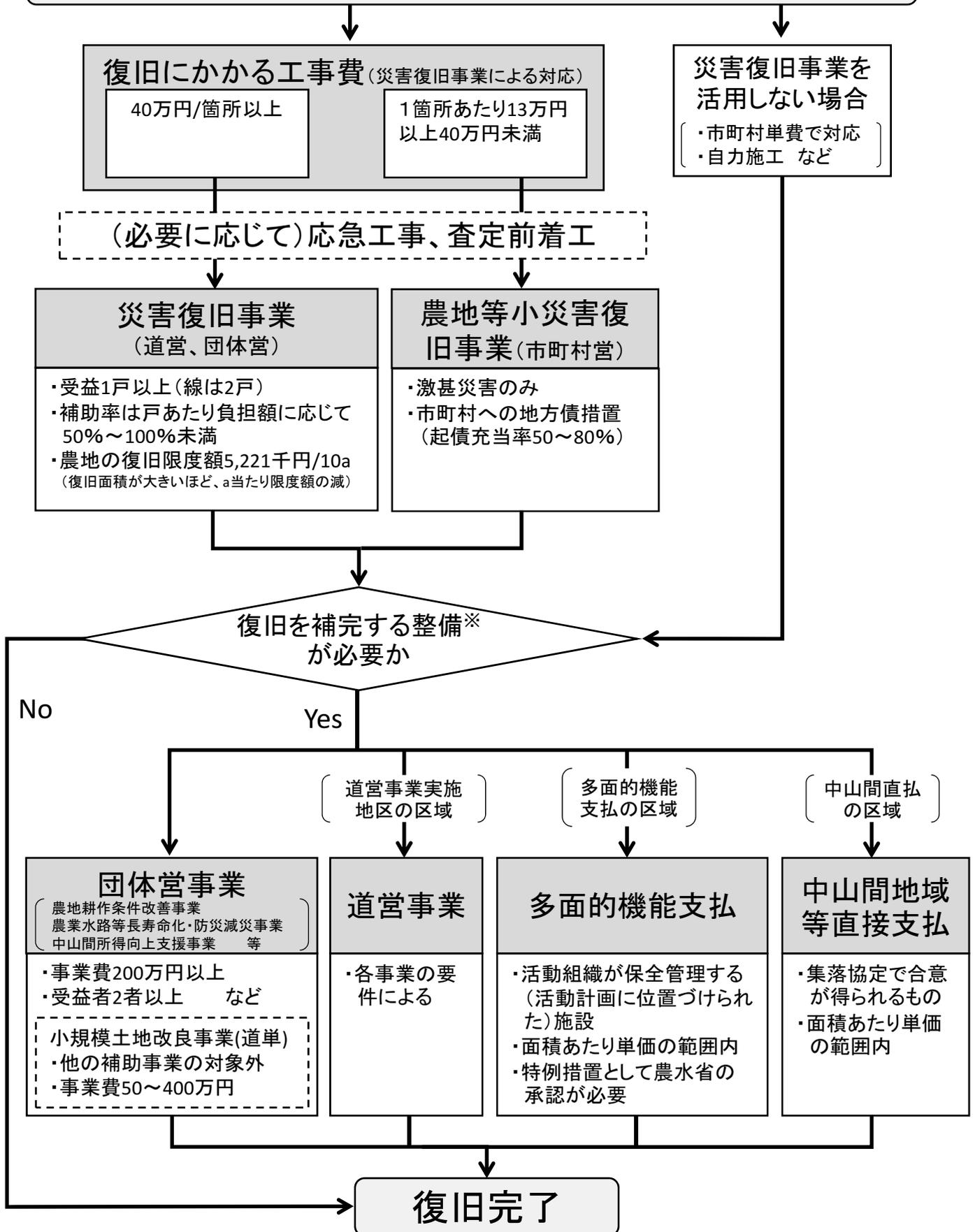
第4 果 樹

- 1 着果状況に応じた的確な摘果を実施するとともに、徒長枝や密生枝の剪定により受光確保に努める。
- 2 りんごの黒星病、斑点落葉病、炭疽病、すす点・すす斑病、ぶどうの灰色かび病、べと病、プルーンの灰星病等、過湿による病害の発生に注意し、速やかに薬剤散布を行う。

第5 草地及び飼料作物

- 1 滞水した草地・サイレージ用とうもろこしほ場では、排水溝を掘るなど速やかに排水する。
- 2 一番草の収穫が遅れているほ場では、作業機が入れるようになったら、速やかに収穫調製作業を行う。ただし、収穫前に土砂が付着した牧草は、サイレージ等の発酵飼料への調製は避ける。
- 3 新播草地などで、冠水により表土が流出して裸地化した部分が大きいほ場は、牧草の追播を実施し、植生改善を図る。
- 4 サイロ周辺やロールパック置き場が滞水した場合は、溝切りや水中ポンプにより速やかに排水する。
- 5 雨水の浸み込んだロールベール乾草やサイレージ、冠水したスタックやバンカーサイロは品質を確認し、飼料用として適当でない場合は、家畜への給与を避ける。

農地・農業用施設(用排水路、農道など)の災害復旧



※復旧を補完する整備(イメージ)

- ・災害復旧事業による原型復旧のほか暗渠排水や客土の整備、あるいは一部被災箇所を含めた区画整理などを団体営で実施(または道営実施地区内であれば計画変更で取り込み)
- ・災害復旧事業の対象とならない水路等の補修・更新は多面的機能支払で実施可能

